

EV・PHEV用急速充電器



# FLASH

## MARK.6



**国内最大級の240kW  
従量課金制を実現**

NACS(テスラ) CHAdeMO



**両規格対応**

**テスラ車を  
アダプター無しで充電！**



## 特徴① 日本国内最大の出力240kW

※一口当たりの最大出力

近年、電気自動車のバッテリー大容量化が目立っております。それに対応すべくFLASHは国内最大級の出力240kWを実現いたしました。これにより電気自動車オーナーの待ち時間を大幅に短縮します。

## 特徴② 従量課金制を実現

これまでのEV充電器は分課金モデルで、充電した時間に対する料金が発生していました。FLASHはkWあたりの従量課金モデルを採用したことにより、設置者の方が利益をあげることも可能になりました。

## 特徴③ 大型ディスプレイを搭載

FLASH MARK.6は正面に32インチの大型ディスプレイを搭載し、充電中のEVユーザーに対して設置先の施設情報等の案内や広告を流すことが可能に。充電収益のみならず広告収益も見込めるように。

## 仕様

充電方法	NACS(テスラ) / CHAdeMO
入力	3相4線式 AC420V(50Hz) / AC440V(60Hz)
定格出力	240kW
出力電流	0~600A
寸法	103×82×195cm(W×D×H)
重量	530kg
効率	94%以上
防水・防塵	IP54
使用環境・温度	-30~50℃
使用環境・湿度	10~90%
正面液晶ディスプレイ	32インチ
決済方式	クレジットカード、QRコード

# 従量課金モデルについて

※特定計量制度に基づいて計量器を用いた充電システムによる従量課金制。

使用電力量と充電電力量は送電・変換ロスにより、差異が生じます。

これまでのEV充電器は分課金制が主流となっており、ユーザーが充電した電力量に関係なく料金が決まります。30分で10kWhを充電できたとしても、50kWhを充電できたとしても、充電料金は変わりませんでした。それに対してFLASHは従量課金モデルを採用し、ガソリンスタンドのように、充電した電力量に応じて料金が決まります。これにより、ユーザーの不公平感を解消するとともに、設置者にとってもメリットが得られるものとなりました。

## 分課金制の場合



充電スピードが速い

= 出力が高くなる程オーナーは赤字になってしまう

## 従量課金制の場合



充電スピードが速い

= 出力に応じてオーナー利益が上がる

〈補足〉

図の例はいずれもバッテリー容量 100kWh 最大入力 250kW 電力コスト22円/kWh  
充電料金は 分課金制の場合 分単価16.5円 従量課金制の場合 kWh単価33円 で計算

※特定計量制度に基づいて計量器を用いた充電システムによる従量課金制  
使用電力量と実際の充電電力量は送電・変換ロスにより、差異が生じます。

# 充電時間比較

## トヨタbZ4X の場合

バッテリー容量:71.4kWh 最大入力:150kW



FLASHで充電

20%→80%



約**17分**

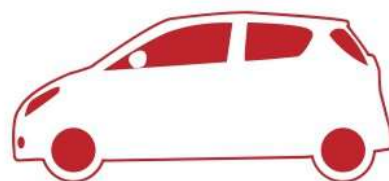


30kW充電器の場合

20%→80%



約**85分**



## 日産アリアB6 の場合

バッテリー容量:66kWh 最大入力:130kW



FLASHで充電

20%→80%



約**18分**

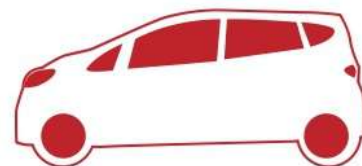


30kW充電器の場合

20%→80%



約**80分**



## テスラ モデルY の場合

バッテリー容量:75.3kWh 最大入力:250kW



FLASHで充電

20%→80%



約**11分**



30kW充電器の場合

20%→80%



約**90分**



※カタログスペック上の数字です。実際の速度はバッテリー残量や環境により大きく変動します